

(様式第 4 号)

第 5 回上田左岸地域協議会 会議概要

1 審 議 会 名	上田左岸地域協議会
2 日 時	令和 6 年 9 月 12 日 午後 1 時 30 分から
3 会 場	塩田公民館 大ホール
4 出 席 者	赤堀委員、稲垣委員、王鷲委員、坂田委員、関尾委員、田中委員、富田委員、西入委員、羽田委員、星委員、前所委員、松田委員、宮坂委員、安江委員、山岸委員、山田委員、和田委員
5 市側出席者	【 事 務 局 】 堀内市民参加・協働推進課長、山崎塩田地域自治センター長、馬場川西地域自治センター長、滝沢城南地域振興政策幹、大森川西地域振興政策幹、平田地域内分権推進担当係長、竹花地域内分権推進担当係長、滝沢地域内分権推進担当主査、城下地域内分権推進担当主査、清水地域内分権推進担当主任、桐山地域内分権推進担当主任
6 公開・非公開	☒ 公 開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍 聴 者	0 人 記者 0 人
8 会議概要作成年月日	令和 6 年 10 月 4 日

協 議 事 項 等

1 開会

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 左岸地域の自治会と住民自治組織の役割について

(市民参加・協働推進課長)会長との事前打ち合わせの中で、なぜ皆さんにアンケートしていただくか、よく理解した上でスタートした方が良いのではないか、というご指摘をいただいた。アンケートの目的について説明させていただき、その後に今日の資料の内容説明をさせていただく。

令和 8 年 4 月に合併から 20 年、住民自治組織の設立から 10 年を迎える時期にきている。自治会の皆さんからも、様々な課題が市に寄せられており、このままでは地域の課題が解決困難になり、地域の皆さん自ら地域を良くしていくことが立ち行かなくなる。

お配りした資料は、合併から令和 6 年度までの人口と増減率が書かれている。地区連単位では人口が増えている地区もあれば減っている地区もある。地域協議会単位では、上田地域は右岸・左岸地域ともに合併から約 2%減少しており、その他の地域は大きく減少している。地区連単位で最も減少したのは丸子の内村地区で 32%減少している。学校や公共施設が無くなったことと連鎖して人口もこれだけ減っている。一方で城下や川辺泉田地区では増えている状況。上田市内でも地域によって、これだけ差が出ている。一律ではない。

資料の下表は住民自治組織単位での人口推移を表したものになっている。城下と川辺泉田は増えており、塩田は 1 桁台の減少。他の合併した丸子・真田・武石地域に比べれば減少率も緩い。

日本全体では、人口は 1 年間に 86 万人程減少している状況と言われている。代わりに、外国人が増えており、332 万人が居住している。1968 年の調査以来、初めて 300 万人を超え、上田市でも 4,800 人程が居住している。

そういった状況の中、何故、今このような活動をしているか。このまま人口や活動を担う人が減っていくことが予想されるが、その状況を何とかしないといけない。地域活動の棚卸と相互補完についてまとめられた資料の内容が目指すべき方向ではないか、と考えている。「自助」で出来ないことを、より大きな単位が補完していく。必ずしも当てはまらない地域もあるが、地域コミュニティの重層化が必要になってくる。

上田市では、10年目を迎えようとしている住民自治組織に、小さな単位で出来ない課題の解決に向けた活動を担ってもらえたら、という想いがある。必ずしも市内一律にはうまくいかないことは分かっているので、地域によって必要な分野を行政が支援していければ、と考える。

日本全国状況を見てきたまちづくり講演会の講師によると、地域協議会や住民自治組織が組織されている自治体は、そう多くない。住民自治組織を作ろうとしてもなかなか出来ない自治体が多い中で、上田市での取り組みを何とか生かしていきたい。設立から色々経過はあったが、住民自治組織の役割や活動内容の方向性をはっきりとさせるため、また相互補完の仕組み作りを研究するためにアンケートを取っていきたいと思っている。

アンケートの説明の前に、地域協議会について経過を説明させていただく。

平成18年3月の合併時には、地域協議会の大体の構想が決まっていたが、委員選考等を経て、平成18年9月からスタートした。主な活動は、設立当初は、合併協定書に記載された事項の内容の見直しの協議、総合計画の検討、重要な公共施設の設置・廃止について。設置は公民館単位の9地域であり、委員数は上田地域は120人であった。

平成20年度には、地域の皆さんの主体的な活動を促進するために「わがまち魅力アップ応援事業」がスタートし、この審査を地域協議会が担っており、報告会なども合わせて平成24年時点で役割の半分程度の時間を費やしていた。また、地域の課題解決に向けた調査研究を行い、市への提言書作成も行っていた。

合併から6年が経過したときに、当時の委員の皆さんから、地域協議会は意見を言えるが実際に行動をする組織ではないため実働組織を作ってはどうか、という提言が出された。そんな中で設立に至ったのが住民自治組織であり、資金を住民自治組織の活動に振り分けるために、わがまち魅力アップ応援事業は収束することとなった。令和5年度を以てわがまち魅力アップ応援事業が終了し、一定の役割を終えたため、地域協議会の開催回数を削減する地域が多くなった。現在は設置単位の見直しが行われ、原則毎月開催いただいております。現在の役割は、市からの諮問に対する検討、総合計画の検討、合併20年目を迎えるに当たっての体制づくり、といったことに取り組んでいる。

(地域内分権推進担当係長) アンケート内容について説明させていただく。事務局内で修正すべき部分を修正した。事前にお送りした通知文、アンケート用紙及び本日お配りしたアンケート用紙をご覧ください。

アンケートの内容は、委員の皆さんに負担をお掛けしないような設問になっている。

まず修正の部分について、通知文は「記」以下の文章について、「自治会とは」「住民自治組織とは」の説明を裏面に記載し、回答方法及び回答期限を追記している。

回答方法については、依頼した地域協議会委員さんにお渡しいただくか、返信用の封筒をお渡しいただきポストに投函いただく形式とした。

回答期限は11月8日(金曜日)とし、委員さんに集めていただいたアンケート用紙は、11月14日の協議会にお持ちいただくことを想定している。アンケート用紙自体は、本日のご意見や他地域協議会からのご意見を踏まえ、修正を行った後、郵送で皆様のお手元にお送りする予定。

前回ご意見いただいたQRコードについては、今回は対象人数も限られているということで、見送りとさせていただきたい。

続いてアンケート用紙について、変更部分は赤字で示したとおり。

「自治会員」の設問は、現在または過去に役員をされていた方もいらっしゃるかもしれないということで、現在に加えて過去についても表記した。

「自治会の必要性・重要性」の設問は、「はい」「いいえ」「よく分からない」だけだったが、回答欄に「そ

の理由」も追加している。率直な理由を記入いただきたい。

「自治会の活動」の設問について、当初の設問では、自治会そのものを変えるか失くす必要があるか、と捉えられてしまう可能性があるため、あくまでも自治会の「行事などの活動」を変えるか、減らす必要があるか、という内容に修正している。こちらも「その理由」をご意見いただけるように修正している。

「住民自治組織の活動について」の設問について、当初は「いいえ」と答えた方のみ、活動を知っていたために何をすることが必要だと思うか、と回答を求めていた。「はい」と答えた方にも、活動を知っていたためにどんなことをすれば良いか、お聞きするように変更した。

アンケートは自治会と住民自治組織の皆さんにも別途に行う予定。委員の皆さんには、出来るだけ自治会または住民自治組織の関係者以外の方にお配りいただけたらと考えている。

事前に何人かアンケートをやっていたが、「よく分からない」という回答が多かった。住民自治組織について、防災の取組みなどを担っていけるのではないか、という意見や、地域の人々との横の繋がりを促すような取り組みが出来れば良い、という意見があった。「よく分からない」という回答も、このアンケートで実態を掴むことに繋がると考える。

(委員)趣旨は分かるが、協議会委員が配る先は、どちらかというところといったことに関心が多い方になるかと思う。質問項目の中に「自治会に入っているか」とあるが、入っていない方との接触があまりない。設問の目的が分からない。

(市民参加・協働推進課長)自治会三役の皆さんには、別のアンケートを検討している。委員の皆さんは、構成団体員やお知り合いの方に配っていただければ良い。自治会から選出された委員さんは、自治会の中にか配れない、ということであれば、それでも構わない。それでは意味がないというご意見か。

(委員)アンケートの中で、「現在、自治会員になっっていますか」という質問に対して、「いいえ」とあり、どうして自治会に入っていないのか、理由を知りたいところはあるが、私の活動範囲の中で自治会に入っていない方はほとんどいない。そういった方にもアンケートに答えていただきたいが難しい。

(市民参加・協働推進課長)入っていない理由を地域協議会で問おうとはしていない。どういった方が回答しているかを知るための設問である。なるべく簡単に回答出来るようにした。

(会長)アンケートの趣旨及び目的は、今後の会議で課題解決を話し合っていく上で、一般の方の考えを参考にするためのもの。我々が協議すべき内容とリンクするような形が一番望ましい。

委員の皆さんは、アンケートを見て、市長から諮問を受けている立場として、自分ならどのように回答するか、まずは考えていただきたい。そこから始めていかないと、お知り合いにお願いするのも難しいかと思う。

(市民参加・協働推進課長)アンケートを取る際は、どのような回答が集まるか想定した上でアンケートを作成することが理想だが、結果が未知であるため、ご指摘のとおりまずは次回までに委員の皆さんに回答していただく、ということでどうか。返信用封筒も同封するが、届けていただいても構わない。

(委員)住民自治組織を知っているか否か、が中心になっており、より建設的な意見を求めようとするのは、

無理があるのではないか。

(委員)同意見。これだと自分達の自己満足になってしまうのではないかと危惧する。

住民自治組織ではこんなことが出来る、それに対してどんなことをやってもらいたいのか、という方向性で意見をもらった方が良いのではないかと。

(委員)そもそも住民自治組織を知らない人が多いと思う。これを入口として次に何をしたいのか、というところを、質問項目に設けた方が良いのではないかと感じた。

(委員)実働組織として住民自治組織が出来て、車を用意し、半過地区の子どもの送迎を住民自治組織の方がやってくださっている。そういった活動をされている方々が何年も苦勞されて、やっと軌道に乗ってきた時期に、このアンケートで、知らない人が多いから、今後衰退していくといった結論になってほしくはない。ランダムに10人程度ということだが、アンケートの結果はあくまでも参考程度にさせていただき、住民自治組織をよく知っていただく方向にもっていった方が良い。

(会長)私も、このアンケートだけで今後の我々の協議の元にするのはいかがかと思う。住民自治組織に対して理解が少ない状況だと思う。まずは委員の皆さんにこのアンケートをやっていただく、という意見には、自分達だったらどういったことを市民に聞いてみたいのか、今後の議論する参考になれば、という思いがあった。

(委員)事前アンケートの結果が、恐らく実態に繋がっていくのではないと思う。自治会を牽引されている方は、必要性・重要性はもちろん、コロナ前後の活動を把握されていると思う。自治会役員でない方にしてみると、「知らない」「分からない」というのが回答の大半になるかと思う。アンケートを取るにあたって、1人10枚の配布ということだが、それぞれの方に渡す際の説明はどうしたら良いか、不安がある。

(委員)送付いただいたアンケート原案を自分でやってみた。住民自治組織に関わってきたので書けたが、知人に配るとして、どこまで書いていただけるかと考えた時に、自治会役員の経験者は書けるかもしれないが、住民自治組織については中々難しいと感じた。住民自治組織の活動で良いところ、と聞かれれば、項目から選定することは出来ると思うが、活動の改善点については、まだ発足したばかりでやっている自分自身も、何が課題で、改善していけば良いか、具体的には書けなかった。かなり踏み込んだ中身についても質問されているので、質問された方にとってはかなり苦しいアンケートという感じがした。

住民自治組織は行政でやらないこと、出来ないことを、地域のチカラを合わせてやっていく組織。地域に分かってもらいたいという思いがある。アンケートを取ってそれを活かして、こういうことが出来る、と伝えることが出来れば良いと思う。

(会長)このアンケートが最初で最後になるということではないと思う。まずは状況を知りたいという思いもある。課題が共有出来れば、それに従って第二弾のアンケートが必要になってくるかもしれない。

事務局では、現状を知りたいということ、知った上で今後の議論を深めていきたい、ということで良いか。

(市民参加・協働推進課長)当初はこのアンケートで市民の皆さんに聞くことで、全てが完結できるつもりで

いたが、実際に活動されている自治会や住民自治組織の皆さんに、この結果を突き付けても、少し足りないと思った。まずはどんな現状なのかを把握したい。自分の母体組織に捕らわれず、まずはアンケートを取った上で、更に自治会の皆さんや住民自治組織の役員の皆さんにも課題などアンケートを行っていきたいと思っている。このアンケートで、何かを止めていこうとは思っていない。より良いものにしていきたいと思っている。地域によって課題も様々だと思う。市内全体を把握したいという思いがある。

(会長)確認だが、このアンケートは市内全体で一斉に実施するのか。

(市民参加・協働推進課長)タイミングはズレるかもしれないが、全地域に実施したいと思っている。

(会長)内容についても、他協議会でも同じ内容で照会する予定か。

(市民参加・協働推進課長)これをベースに、同じものでやりたいと思っている。

(会長)左岸地域協議会でも沢山の意見が出た。他協議会では協議しているか。

(市民参加・協働推進課長)左岸地域協議会が最前線であり、他地域協議会にはこれからお諮りする。

(委員)実施するとなれば対象を絞り、地域協議会、自治連、自治会など、対象をしっかりと決めた上でやって欲しい。

(市民参加・協働推進課長)こうでないといけない、ということはない。皆さんからいただいた意見をお聞きしながら進めてまいりたい。

(委員)あくまでも一意見だが、委員1人当たり10人へ配布といっても、皆さんも誰に配るか困ってしまうかと思う。まだアンケートの目的が良く分かっていない。地域協議会の中で意見を出していくための、1つの材料としてのアンケートということか。アンケートの目的と対象をしっかりと決めた方が良いと思う。

(市民参加・協働推進課長)市民の皆さんの認知度など状況を調べるのであれば、無作為に行う必要があると思うが、ご意見はごもっともだと思う。委員の皆さんにアンケートを回答していただき、集計してみて、母数が必要となれば更に対象を広げていけば良い。他地域ではまだ何も決まっていないので、統一したい。

(会長)まず委員の皆さんに回答いただき、質問の項目の在り方などブラッシュアップしていく。自治会や自治連、住民自治組織の皆さんへのアンケートについても、それらを踏まえて検討していくということ。

(委員)自分でアンケートをやってみて、疑問に思う部分があったが、訂正いただいて良かった。紙を配って「後はやっておいて」というのであれば、「分かりません」という回答が返ってくるのは想定される。対面でお願ひするときに、市民の皆さんがどのように考えているか知りたい・理解したい、という想いで取組むことによって、この会が盛り上がっていくとしたら意味のあるものと思う。説明しながら会話をしていくことによって、自分自身の理解も深まると良い。

自治会に加入しているか、という設問だが、データとして市役所で把握出来ていないのか。補助金を算出する上で、加入者数は分かっていると思う。

(市民参加・協働推進課長) 毎年調査をしているので把握している。加入者と未加入者によって回答に差が出るか、という部分。

(委員) 自分は川辺町だが、入れ替わりが多く、未加入者も結構居る。どうしたら良いか、という想いもあり、知りたいという気持ちはある。全員が加入している自治会もあるかもしれないし。この質問は私としては意味のある質問だと思う。時間は掛かるかもしれないが、説明・会話しながらアンケートに回答いただくことが必要と考える。

(市民参加・協働推進課長) お渡しすることで知らなかった人に活動が伝わると思う。皆さんにお話を伺う中で意味のあることをやった方が良いと思うので、委員の皆さんに回答いただいた上で集計して、足りないのではないかと、という意見があれば補足していけば良いと考えている。

他地域協議会でも同様にやっていきたいと思っている。

(委員) まちづくり協議会で活動しているが、どのように記入すれば良いか。

(市民参加・協働推進課長) 活動している状況を、そのまま書いていただければ良い。

(委員) 偏った意見になるのではないかと。

(市民参加・協働推進課長) 20 人の委員さんが居るので構わない。

(委員) 1 人当たり 10 人へ配布と言われているが、それよりも沢山取っても良いのか。それとも 10 人でなければならないか。

(市民参加・協働推進課長) 配布は一旦見直すので、委員の皆さんだけでアンケートに回答いただきたい。

(会長) まずは委員で回答して、それを踏まえてアンケートの中身や書き方を検討してはどうか、という趣旨。

(委員) それで市民に配るアンケートが出来たら、必ず 10 人でないといけないのか。

(会長) アンケートの信頼性の部分で、10 人に限定して回答をもらうより、左岸地区の不特定多数の皆さんに広くアンケートを取った方が良いのではないかと、思う。それは難しいか。

(市民参加・協働推進課長) 予算も限りがある。実際に把握したい内容と天秤に掛けると、不特定多数でやなくても良いのではないかと、思っている。

(委員) 不特定多数でなくても良いのであれば、知り合いで学習会をやっている方が居る。その場に居る 20 人

にアンケートを取るのであれば良いか。

(市民参加・協働推進課長)当初は、皆さんの知り合いから回答をいただければ、ある程度の回答数が集まると思っていた。10人と決まっているわけではなく、皆さんと決めていきたいと思っていた。それは次の段階にさせてもらい、まずは委員の皆さんの回答をいただいて判断したい。

最初の説明では今日の会議を以て修正したものを皆さんにお配りして、11月の協議会で回収する段取りで考えていたが、一旦取りやめる。今日お配りしたアンケートを皆さんに次回までに記入してきていただき、集約する。それを以て更に市民へのアンケートが必要か、協議いただきたい。

(会長)次回に提出よりも、事前に提出いただいた方が良いか。

(市民参加・協働推進課長)ご負担で無ければ、1週間位前までに提出いただければ、次回の協議会に集約したものをお示し出来ると思う。素案だったので、修正して、返信用封筒を付けて郵送するようにする。

(会長)自治会や住民自治組織へのアンケート内容をどんなものにしたいか、合わせて考えてくるということか。

(委員)アンケート項目の2番目に「現在、住民自治組織に参加していますか」という設問があるが、構成員になっているか、或いは活動に参加したことがあるか、どちらで捉えれば良いか。

(市民参加・協働推進課長)構成員については、また別に意見を聞ければと思う。ここでは活動で良い。

(委員)城下だと、消防まつりを開催しているが、そういった祭りに参加したことがあるか、という解釈で良いか。

(市民参加・協働推進課長)そのとおり。わかりやすく修正する。

(委員)自分もランダムに200人選んでアンケート出来ればと思った。アンケートの内容は、左岸地域協議会の意見が反映されたものが良いと思う。5、6人くらいで左岸地域協議会アンケート検討委員会みたいなものを設けて、検討するような組織を作ったらどうか。

(委員)アンケートを取るにあたって、皆さん配布先を気にされている。意見を書けるようにしてもらえれば有難い。

(2) その他

4 事務連絡

次回 第6回開催予定

日時 10月17日(木)午後1時30分から

場所 川西公民館 大ホール

5 閉会